

平成25年度事業活動報告（委員会活動状況）

1. 長期優良住宅向け玄関ドアの標準仕様決定とBL化への基礎固め

最初から取り替えることを前提としたサスティナブルな商品の基礎技術の研究を行い、将来的には高付加価値商品への転換を目指した前年度継続議案として、平成25年度は、BLとの協議を重ね、詳細部の検討・討議を行い、仕様決定と基準図を完成させました。また、プレゼン資料も作成し、今までの新規基準を策定し申請するだけの取り組みとは異なり、まずは、本テーマの趣旨等についてBLと協働で顧客への説明・理解に努め、採用を目指し、平成26年度は、BL内にてWGを立ち上げ、取り組む予定です。

2. JIS K 5629代替塗料に関する業界取り組みへの参画（環境配慮活動）

平成25年版公共建築標準仕様書では、JIS K 5629鉛酸カルシウムさび止め塗料および鋼板のクロメート処理についてそのまま存続となった。しかしながら、次回改定（平成28年）には両者とも削除される可能性があるので、関係業界と連携を図りながら、鉛・クロムフリー化への協力体制をとってきました。現在は、塗料工業会にて選定している代替塗料のドアへの塗布試験と適正評価や、気密材への影響確認試験等を行っています。

3. ドア技術に関する業界取り組みと情報共有

公共建築工事標準仕様書や東京都の仕様書等、関係する仕様書や基準等に対して報告と情報共有を行いました。また、鋼製軽量ドアにかかる耐風圧試験成績書の記載やドアガード外しの手口等、鋼軽協会員各社に対して情報共有をはかり討議しました。直近では、平成26年度より住宅性能表示制度が改正され、防犯等が選択項目になる等の情報を共有し、その対応策等について討議を行う予定です。

4. ドアの耐用年数ガイドライン作成のための検討

昨年、日本ロック工業会より「錠の耐用年数についてのガイドライン」が一昨年7月発行され、(一社)日本サッシ協会でも「ビルサッシの安全に係る部品交換ガイドライン」が今年4月に発行された。

鋼軽協としても、関係業界の動きも調査し、連携を図りながら検討を進めています。

5. 課題

今年度のメインテーマである1の事業に関しては、スケジュール等を作成し、進めてきましたが、BLとの協働が必須であるので、今後はBLとの協働関係を積極的に行い、顧客の理解に努める予定です。顧客説明用プレゼン資料の作成まで実施しました。

以上